

## 小低の生活単元学習で「調理」はNGか？問題

『本質を理解していくことがなかなか難しい生活単元学習。生活単元学習って「調理」とか「畑」とか「散歩」とかする学習でしょ？と思っているそこのアナタ。ちょっと違うんですよーという話です。

### 生活単元学習における「単元」の作り方

『まず、「単元学習」について復習をしてみます。以下の資料は、新・埼玉県教育課程編成要領に掲載される内容です。元々の文章は岡山の教育課程資料です。

『各教科等を合わせた指導である生活単元学習における単元については、通常の教育における単元を踏まえたうえで、知的障害を併せ有する児童生徒の学習をより効果的にするために発展してきた歴史的な経過がある。生活単元学習における単元とは、「計画-準備-実施-反省-再計画」の一連の活動のまとまりのことであり、知的障害を併せ有する児童生徒の学習の特性を踏まえた上で生活に根差した題材を用いて構成される。

『波線の部分が重要な箇所です。「生活単元学習における単元とは、「計画-準備-実施-反省-再計画」の一連の活動のまとまりのこと」となっています。また、生活単元学習を実施するに当たって、「先生は「共同生活者」として位置づけられるので、子どもたちと計画をして、準備をして、実施をして、子どもたちと反省をして、子どもたちと再計画するものという理解になります（教員が一方向的に内容を決めて、題材的に提示するものではないということです。参考図書は小出進先生の緑本です）。なので、例えば「パイ」という題材を使って単元学習を構成するとしたら、①「何を食べたい？そうかー、パイが良いんだ。（計画）」-②「パイを買いに行こう（準備）」-③「作ろう（実施）」-④「何味が美味しかった？（反省）」-⑤「次も作る？他のものにする？（再計画）」と単元を作っていきます。

### 生活単元学習の理論的な背景

『次に「生単」ってどんな資質・能力を育む学習か？についてです。新・埼玉県編成要領では「生単で育む資質・能力」を明記しました。以下の様になっています。

『「各教科等を合わせた指導」は、①児童生徒の生活と密接に関係する様々な内容のまとまりを、生活に結びつく实际的・体験的な活動や問題解決の中での「主体的・対話的で深い学び」の実現を通して、現実の生活に生きる力として育むことや、②教科別の指導の中で身に付けた「知識及び技能」を、实际的・体験的な活動や問題解決の中で用いて「何ができるのか」「どのように使うのか」まで発展させ、「生きて働く知識及び技能」として位置付けていくといった、①⇒②、②⇒①という相補的な考え方の下に行われる指導である。そこでは必然的に「思考力、判断力、表現力」が働き、また、学びを社会やよりよい人生に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」も必要となる。つまり、「各教科等を合わせた指導」は育成を目指す資質・能力の三つの柱を三位一体として扱う中で「生きる力」の具現化を図る指導の形態である。

¶ 要旨は2つあるのですが、

① 人が生活をする中で自然に繰り返す問題発見・解決の作業(例えば、家族旅行を計画するとか、夕飯のメニューを考えると、仕事で頼まれたことを遂行する等々…生活全般で繰り返される「計画-準備-実施-反省-再計画」の)を、子どもに寄り添った実生活から丸ごと取り出し、単元を変えながら何度も何度も取り組むことで「計画-準備-実施-反省-再計画」という問題解決上手、生活上手、暮らし上手な人になる資質・能力を育てる。

② 各教科で培った資質・能力、見方・考え方を般化や馴化していくという役割。「生きて働く」化(例えば国語・算数で付けた「お金の計算」の力を、スーパーに行って発揮して、校門の外でも使える力に昇華していく事など)。

を通して、生きる力の育成を生活単元学習という指導形態でねらっています。

### 小低の生活単元学習で「調理」はNGか？問題

¶ 以上を確認した上で、タイトルの問題について考えるのですが、

・単元内の「調理」という題材のみでは、生活単元にならない。⇒調理のみの生単はありえない。

・小学校・中学校の学習指導要領とのヨコの連続性との整合性があるか？というよりも、子どもたちの今の生活の中に根ざしているか？に着目して単元をつくるものであるということ。

・複数の各教科の指導の内容から抜き出したものを「合わせた指導」を行うという趣旨の合科学習ではないということ(これは総合的な学習の時間の取り扱いですよ)

などから、以下の様な理解になるのかな？と。

「調理活動」は小学部低学年内の生活単元学習の「学習活動」に入れることはできるけれど、「調理だけに関わる目標」は設定することは不適切(それは「家庭科」の目標になるから)になる。また、プランB(前期・後期)の「学習内容」の欄には例えば、

×「調理活動:パイづくり」

ではなくて、

○「おたのしみ会をしよう」-はたけでそだてたおいもでパイをつくろう-

という記載なら適切。

¶ なので、「調理手伝い」なら生活単元学習内で調理ができて、「調理活動」なら調理ができないとかという議論ではなくて、基本形が「計画-準備-実施-反省-再計画」という子どもたちの生活から抜き出した、子どもに寄り添った実生活から丸ごと取り出した単元となっているか？がポイントになり、その生活の抜き出しの中に調理活動が入っているのであれば、活動としては問題は無い。但し、単元目標にイコールで調理の目標が来ることはあり得ない。そんな感じなのです。他にも「単発のおさんぼ問題」とかも同様に考えられますよね。